

千葉農業事務所

普及だより

URL <http://www.pref.chiba.lg.jp/ap-chiba/>

【第152号】 2021年3月1日

発行：千葉農業事務所改良普及課
千葉地域農林業振興普及協議会
千葉市緑区大金沢町473-2
(千葉農業事務所 分庁舎)

TEL043(300)0950
FAX043(293)2710

令和2年度 指導農業士・ 農業士の新規認証者を 紹介します。

千葉地区で新たに指導農業士2名、農業士4名の方が認証されました(写真参照)。

千葉県指導農業士・農業士とは、農業者として意欲をもって農業に取り組み、地域農業組織でリーダーを務めた方や、農業後継者を養成している方(指導農業士のみ)を千葉県知事が認証する制度です。今年度は県全体で、指導農業士14名、農業士23名が認証されています。

指導農業士、農業士は、それぞれ県組織と地区組織があり、視察研修、経営訪問、情報交換、後継者育成等の活発な活動を行っています。今年度、千葉地区では指導農業士会の主催で、販路拡大をテーマに新規就農者との交流会を開催しました。
皆様の今後一層のご活躍を期待します。

指導農業士



榎本 雅之さん
千葉市
露地野菜
ニンジン・キャベツ



柴 裕一さん
千葉市
露地・施設野菜
ニンジン

農業士



菅野 英明さん
千葉市
露地野菜
ニンジン・キャベツ



齋藤 健太さん
千葉市
露地・施設野菜
ニンジン・キャベツ



鶴岡 裕之さん
市原市
水稲・露地野菜
ブロッコリー



村山 武史さん
八千代市
施設・露地野菜
イチゴ

収入保険は、様々なリスクから 農業経営を守ります！

1 補償の対象となる事例
自然災害、価格低下、新型コロナウイルスの影響、けがや病気による収穫不能、盗難等による収入の減少など。

2 加入できる方
青色申告を1年以上行っている農業者(個人又は法人)。

3 保険期間
個人は1〜12月、法人は事業年度の1年間。

4 補償内容
保険期間の農産物の販売収入が、基準収入の9割を下回った時に、下回った額の9割を上限に補てんします。(肉用牛、肉用子

5 補てん金の支払い
保険期間終了後に支払われま

す。保険期間中に補てん金の受け取りが見込まれる事態(自然災害等)が発生した場合、無利子のつなぎ融資が受けられます。

◆問合せ先
千葉県農業共済組合本所
(043-245-7447)

農業経営体育成セミナー研修生を募集します！

農業事務所では、就農間もない青年農業者を対象に、農業経営体育成セミナーを開講しています。セミナーでは、講義や視察を通じ、3年間で営農に必要な知識や技術の習得を目指します。

また、同じ時期に就農した仲間とつながりを築くことができるのも大きなメリットです。
令和3年度は5月に開講予定です。詳細・参加希望はお気軽に農業事務所まで問合せ下さい。
(043-300-0950)

八千代市で頑張る若手女性農業者

産地に貢献できる女性農業者を目指して

八千代市の若手女性農業者は、JA八千代市フレッシュユミズ・アンシャンテ倶楽部(会員10名)での活動の他、各分野での勉強会に積極的に参加し、経営参画に向けた活発に活動しています。

農業事務所主催の「アグリレディースセミナーinちば」機械研修会では、JA八千代市の協力のもと、大型機械を操作する他、女性でも扱いやすいモーター式の刈払機やチェンソー等を体験したことで、すぐに導入し、作業に参画するなど意欲が高まりました。

また、八千代市は梨の直売が盛んに行われ、女性農業者の力が必要不可欠となっています。農業事務所では、女性にも剪定や摘果等栽培の要となる技術を習得してもらうため、初心者講習会を開催し、産地の主要な担い手の一人と

なるよう支援しています。

更に、農産加工に興味がある女性農業者も多く、実践農家への見学や研修会等へ積極的に参加し、知識を深めています。

八千代市で頑張る若手女性農業者が核となり、産地がより活性化することを今後も期待します。



アグリレディースセミナー in ちば機械研修会 (H31.3.6)



梨初心者講習会(新梢管理、R2.7.2)



地元の有名洋菓子店を講師に招いたアンシャンテ倶楽部のケーキ講習会(R元.6.13)

落花生新品種「おおまさりネオ」 「おおまさり」の課題を改善!

「おおまさりネオ」は、「おおまさり」の欠点を改善した千葉県育成の落花生新品種で、「おおまさり」同様、極大粒で食味が良く、ゆで豆加工に適しています。

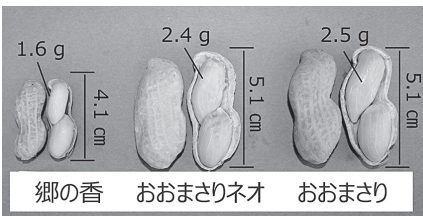
改善点①【株をコンパクトに】

「おおまさり」の草姿は半立性で分枝が長く、株が大きいため、慣行（「郷の香」等）より株間を広げる必要があります。また未成熟莢が多く、調製が煩雑です。

これに対し「おおまさりネオ」

は立性で分枝が短く、株がコンパクトなので、慣行の栽植密度で栽培可能で、収穫作業が楽です。未成熟莢も少ないため、調製しやすく、株元に莢が集中するので、エダマメ脱莢機による脱莢も可能です。収穫適期は、開花期後85〜90日頃です。

※「開花期」とは、40〜50%の株に1輪でも花が咲き始めた日。



莢実の比較
新品種「おおまさりネオ」の莢の長さの子実の重さは、「おおまさり」とほぼ同等です。



株の比較
左：おおまさりネオ 右：おおまさり

写真提供：千葉県農林総合研究センター

改善点②

【茎腐病・白絹病に強い】

「おおまさりネオ」は、「おおまさり」に比べて土壌伝染性の病気である茎腐病、白絹病に強く、栽培しやすくなりました。

◆「おおまさりネオ」は令和3年から一般栽培が始まります。是非、栽培をご検討ください。

被害急増！対策急務！ ～イノシシの生態と対策～

イノシシの生息域は、千葉地域においてもここ数年で急速に拡大しており、今年度は農作物被害にどまらず、市街地での目撃情報が増えています。今年度のイノシシ増加の要因として、令和元年の相次ぐ台風によって捕獲活動が停滞したことや、餌となる木の実（ドングリ等）の倒木などがあります。山が荒れたことにより、木の実が不作で、餌を求めて人里に下りてきているとみられます。

イノシシ捕獲頭数の推移（頭）

捕獲期間	千葉市	市原市
平成31年4月～令和2年3月	54	2,256
令和2年4月～令和2年12月現在	69	2,161

*イラストはイノシシの足跡

○イノシシの生態と痕跡
森林の中よりも山際や耕作放棄地に住み着き、その増加とともに生息域を拡大しています。1歳半から繁殖可能で、年に1回、春から秋に平均4〜5頭を出産します。イノシシの足跡には大きな蹄と後ろに小さな蹄の跡が2つずつあります。鼻で地面を掘り返した跡や、木に体を擦り付けた跡（地面から高さ50cm位までに泥が付く）がイノシシの痕跡の特徴です。

○イノシシ対策

- ①耕作放棄地や草むら等を取り除き、すみかを作らない。
 - ②放任果樹や収穫残渣等が餌場とならないよう早期に撤去する。
 - ③電気柵や物理柵（ワイヤーメッシュ等）を設置し、侵入させない。
 - ④箱わな等を使い、捕獲する（狩猟免許が必要）。
- イノシシ被害から地域を守るためには、一丸となって取り組むことが重要です。まずは地域内で話し合い、体制作りをしましょう。

イチゴ界の開拓者 千葉市のイチゴを有名に！ ～千葉市 田中幸男さん～

千葉市緑区の田中幸男さん（64歳）は、観光イチゴ園75aと水耕サラダ菜30aを経営しています。平成14年に指導農業者に認証され、地域のリーダーとして活躍されています。

○観光イチゴ園の先駆者として

19年前、田中さんは千葉市で初となる観光イチゴ園『エアート・ベール』を開園しました。当時は土耕栽培が主流でしたが、しゃがまず摘みとりができる高設栽培を採用しました。視察等で得た情報から自分の経営に合った手法を見極め、積極的に取り入れていきます。

「来てくれるお客様が癒される空間を演出したい」というこだわりから、園を花で飾り、ハウス内にキッズ用アスレチック遊具を設置。毎年クリスマスには、生演奏

を聴きながらイチゴ狩りを楽しむイベントを開催しています。

○地域の頼れる相談役

「若い農業者が育ち、地域を盛り上げてほしい」と語る田中さんは、今まで多くの研修生を受け入れています。栽培指導だけではなく、地域の農業者との橋渡しもしています。その後、研修生たちは千葉市で観光イチゴ園を開園し、活躍されています。

○千葉市といえばイチゴに

田中さんが今情熱を注ぐのは千葉市のイチゴのPRです。「千葉市といえばイチゴと言われるようにしたい」。市内のイチゴ生産者と連携した活動に、新たな飛躍が期待されます。



千葉市のイチゴPRに力が入ります！（販売促進イベント、ペリエ千葉）

おいしくミニトマト ～習志野市 桜井孝則さん～ 懸ける！

桜井孝則さん（34歳）は、習志野市でミニトマトを栽培しています。農業生産法人で3年間ミニトマトの栽培や販売について学んだ後、平成29年に16aの施設を建設、自身の農業経営を開始しました。

○農業経営体育成セミナーに参加して

「地域の農業者と出会える」と聞き、農業事務所で開催している農業経営体育成セミナーに参加しました。同じ新規就農者や先輩農業者等と出会い、相談や情報交換の機会が増えました。また、プロジェクト活動として、自身にとって有利な品種を選定するため、「ミニトマトの品質・収量向上にむけた品種の比較選定」に取り組みました。

○農業の難しさを痛感

令和元年、施設が台風により破



ミニトマトに注ぐ視線は真剣です。JA千葉みらいしよいかーご習志野店等に出荷しています。

損し、8月に定植した苗が被害を受けました。トマト黄化葉巻病の発生も重なり、出荷量が減少、農業経営の難しさを痛感したそうです。

○手本となる農業者を目指して
就農4年目となる今年、施設を復旧させ、トマト黄化葉巻病抵抗性品種を導入しました。「現状では確かな栽培技術を持っておらず、多くの作業が後手になってしまつ。課題を克服して、地域で手本となる農業者になりたい」と、去年より今年、今年より来年、と「おいしくミニトマト」を作るために栽培技術の工夫を重ねて頑張っています。